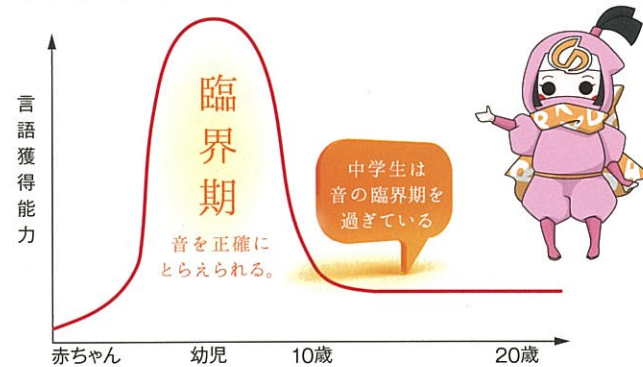


語学には幼児期にしか身につけることが出来ない能力があるのをご存知でしょうか？



● 正しく聴き取る力と伝える力

日本人は英語が苦手と言われてます。とりわけ、「聴き取る力」と「伝える力」に於いて苦手意識をもつ事が多いとされています。それはなぜでしょうか？答えは簡単です。日常の中で自然と英語を聴いたり話したりする環境がないからです。本来言葉というのは、私たちが日本語を習得したように自然に習得していくものです。幼児期は絶対音感を身につけると同じように、語学に関してもその言語独特の周波数を聴き取る能力に優れているので、この時期身につけた英語の「音」の感覚というのは大人になっても一生残ります。逆に言えば、この時期を逃してしまうと正しい英語の「音」を認識することが非常に困難になるため、その後英語を学習したとしても、幼児期に正しい英語の「音」を身につけた子どもとは、能力に大きな差が出来てしまいます。



● どんな英語教育が幼稚園・保育園の教育現場には適切なのか？

時代のニーズとして、英語を「正しく聴き取る力」と「正しく伝える力」が求められていることは言うまでもありません。やはり幼児期はその「音」を正しく習得できるゴールデンエイジです。ただし、その「音」の感覚を正しく身につけるには、自然と正しい音を聴き取れる「環境」と「毎日の繰り返し」が必要なのです。週に1回の外国人講師による英語教育では、正しい英語の「音」の感覚を培うことが出来ません。また、CDやDVDの聞き流しのような受け身の教育も子供たちにとって適切ではありません。何でも双方向的に行うのと、ただ単に受け身で行うのではその効果は天と地ほどの差があります。忙しい幼児教育の現場には、毎日の保育の中で違和感なく、英語の時間を取れる環境が理想です。教える側と子どもたちがコミュニケーションを取りながら、自然に楽しく取り組むことが出来る英語教育が適切でしょう。

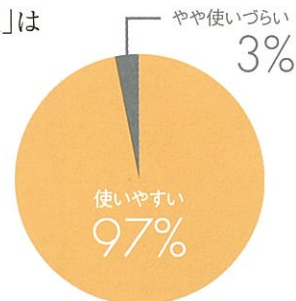
● 全国1,200教室以上、毎日30,000人の子供たちに親しまれている 双方向英語学習システム『Cyber Dream』

幼児教育の現場で毎日英語教育を行うということは、イメージ教育ではない限り困難を伴います。それは「経済的な問題」「物理的な問題」などがあるからです。全国1,200教室以上、毎日30,000人以上の子どもたち(※1)に親しまれている双方向英語学習ツール『Cyber Dream』は、ファジーコードテクノロジー(※2)という特許技術により、英語の全く出来ない担任の先生でも簡単に英語を教えることができるシステムです。使い方は本体をモニターに接続し、オリジナルに開発した

月ごとに変わる1枚のシートに沿って専用のバーコードを読み取るだけ。2013年度に実施したユーザーアンケートでは、97%の担任の先生から使い方が簡単との評価をいただきました。使用時間の目安は毎日5~10分。担任の先生による事前の準備や管理なども一切ありませんので、忙しい教育現場に負担をかけることがありません。また、どの先生が操作してもクラスによるレベルの差がないので、いつでも安心して普通のレッスン成果を保護者の方にご覧いただくことが可能です。

※1 2014年9月現在の実績
※2 ファジーコードテクノロジーとは複数のバーコードを組み合わせる事により多彩な広がりを生むことが出来る技術です。【商標登録 取得済】

Q.『Cyber Dream』は使いやすいとお感じですか？



-使いやすい 71
-やや使いづらい 2
-使いづらい 0

Cyber Dream quality education for everyone サイバードリーム は教育現場のニーズを考え

充実した英語教育が出来る双方向学習ツールです。

『CyberDream』は特許を取得した、全く新しい英語学習システムです。月ごとに変わる1枚のシートに沿って、専用のバーコードを読み取るだけで瞬時に外国人や単語の映像がモニター画面に現れ、ネイティブスピーカーの音声流れます。単語はもちろん、会話や歌など様々なコンテンツを収録しています。英語が全くわからない先生でも毎日の保育の中で自由に操作しながら英語を楽しく教えることが出来、先生と子どもたちの双方向教育が可能なツールです。



CyberDream開発チーム

幼児期の英語教育は早期教育ではありません。『適期教育』です。

私たちが日本語を自然に覚えたように、英語を「楽しく」「自然に」習得できる環境が整っていれば、スポンジが水を吸収するように自然に英語が身につきます。楽しみながらの学習は、子どもたちの好奇心をより刺激し吸収力に差があらわれます。幼児期はもっとも脳が発達し、さらに耳に入ってくる発音、例えば R・Th・Vなどへの聴きとり能力が高い時期です。また、幼児期に記憶された発音はたとえ数年の間においても確実に記憶され脳に残っています。

英語を身につけるには何が必要か？

子どもたちが無理なくかつ楽しみながら英語の力を身につけていく、そんな英語教育の実現を目指し研究を続けてきた結果、ようやく分かってきたのは、教材や講師の力量ではないということです。これまでの外国人先生による週1回の教育スタイルには限界があります。英語に限らず語学をマスターするために大事な二つの要素は、「ネイティブの英語を常に聴いて話せる環境」と「毎日、習慣的に繰り返し経験する事」です。



環境
ネイティブの英語を常に聴いて話せる環境

繰り返し
毎日、習慣的に繰り返し経験する事